

シーン2

「うああああ…恥ずかしかった、恥ずかしかったあ」

「冷静になって考えると自分の愛液段ボールに詰めて送るなんて…ふああああ。運送会社の人にバレてないよね。顔ずっと真っ赤だったけど、片言でやりとりしちゃったけどお…」

「うう、ポイントにつられて返送サービス使わないほうがよかったかな…でも、使用後の触手くんとか愛液とか全部専用段ボールに詰めて送り返したら次に使えるポイントいっぱいもらえるし、触手くん20分経ったら動かなくなってトイレに流すとか生ごみに捨てるとかはちょっとないし」

「あ、返送したら基本セットがこんなに安くなるんだ」

「愛液とかの後処理用の触手さんもついてるからあれだけやっても後片付け楽だったし…お父さんとお母さんがいない日は次の月の…」

「基本セットの触手の素も初心者セットと変わらない？　ちょっとこっちの方が大きいかな。基本セットから射精機能もあるんだよね。精子ローションって書いてあったから本物じゃないと思うけどどんな感じなんだろう」

「そ、それじゃあ、ぬるま湯を用意して……」

「よし、あとはよだれと素をぼちゃんと」

「え、ひゃっ……わわわ、すごいおっきくなったサイトでみると実物だと迫力がちがうね。クッションタイプってあったけど私よりおおきいんじゃない？　ぷにぷにでこの子もあんなに硬くなるのかな」

「触手も太くなってる。これなんてわたしの腕ぐらいある……触手くんというより触手さん？　よ、よろしくおねがいます……って、私はおもちゃ相手に何言ってるんだろう」

「……ええっと、どっちから行こうかな？」

「前からは……うん、まだちょっと勇気がないや。クッションに座るみたいにお尻からでも大丈夫だよね」

「んっ……あ、はあっ……ねちよって……はあ、はあ♡　触手さんの感触で私、もうドキドキしちゃってる」

「あ♡　ん♡……はあ、はあ♡……んあ♡　ちょっと怖かったけど最初はやさしくしてくれてる。ん♡　はあ、はあ♡……お尻が触手につつまれて、ん♡、いろんなところじっくり舐めてっんあ♡　触手さんの匂い前より強いのにすごくエッチなおいで、んちゅ♡　はまっちゃうかも♡」

「ハア、ハア♡ くちゅくちゅ音…んっ♡ お汁もういっぱい出ちゃってるよう♡」

「ふあ、デイルドみたいな触手さんに、歯ブラシをおっきくしたような触手さん、硬くてつぶつぶがいつぱいついてる触手さん…あ、も、もしかして入れちゃうの、わたしのあそこに入れる触手さんを選ぶの？ わ、わわ…みんなとろとろでおっきくて、ん♡ こんなに入れたら…そ、それじゃあこの先っばや途中にちっさな触手さんがうねうねしてるの、かな」

「ああ、太くて♡ 硬あい♡ デイルドでもこんなの入れたことないのに、わたしすぐドキドキしてる…あ、んあ♡！…ん♡ んん♡ ふあっ♡！…ん！ ふう♡！ ふうっ♡！…はふ、ん♡」

「んちゅ♡ これ入っちゃうんだ…はむ♡ このちっちゃな触手さんで中、っん♡ 広げながら♡ ふあっ♡ 初心者セットの触手くんであんななっちゃったのに…んあ♡ ハアッ、ハアッ♡！！ ふあッ♡！…ん！ ふう♡！ ふうっ♡！…はふ、ん♡…ッうあ！」

「んひゃ♡ んああ♡！！ 急に激しくっ♡ でも、触手さんのなめなめ好き♡！？」
「くうっ！ ん♡ んふう♡！…ごくっ、んあ♡ ふあっ♡！…んっ、んあっ、はう…あ、あっ♡ 触手さんもなめなめお返し。ちゅ♡ どんどん硬くなってる。ふあ♡ おっぱいではさんでば、パイズリっていうんだよね…んちゅ♡ さきっぱにキスするのとってもエッチ♡ んあ♡ ん♡ そこ、お口はおマンコじゃないの♡ あむ♡ 触手さんの粘液のむとどんどんエッチになっちゃって…最初はこっちでもいいか」
「んちゅぼっ♡…ん、ん♡…んふー♡…ふー、ふー♡ ♡ れろ、れお♡ ん、ん♡…んー、んー♡…ぷっは♡ 息つらいのに頭ポーっとしちゃって…んぶっ♡ んお♡ ん♡ ん♡」

（わたしすごい声出してる♡ 家には誰もいないけど、外に漏れてたら♡ ダメなのにとまらない）

「じゅぽっ♡ じゅる♡ じゅるるっ♡……んあ♡ んー！？……ん、んっ♡……じゅるるっ♡ んあ♡」

（お口の中で先端がおっきくなってるのわかる♡ やっぱりあれだね。触手さんの中にセーしたまってるんだよね。本物の精液もこんな匂いなのかな。こんなに臭いのエッチで興奮しちゃって、触手さんの精子もつと欲しくなっちゃう）

「ん♡ んー♡……じゅぽ、じゅっぽ♡ んふう♡……じゅる♡ ん、ん♡ んっ……♡♡♡……？？」

（触手さんのセーし出てるぅ！？ 先っぽのちっさい触手さんの穴からびゅるるって♡ お口の中いっぱい！？ 息できない♡ 喉が勝手にごきゅごきゅ飲んじゃってる♡ わたし触手さんに喉の奥に出されながらイっちゃうぅ♡♡！！？）

「ぶっはあ♡ あひっ♡ 射精すごかった……これ私をあそこで出しちゃうんだよね。ど、どうなっちゃうんだろう。んあ♡ 想像しただけでおまたキュンってなっちゃう」

「んちゅ♡ 触手さんのセーし白くてどろどろですっごくエッチなおい。お、男の人のセーしもこんなかんじなのかな……ちゅぽっ♡ すごい匂いなのにもつと欲しくなっちゃう♡」

「はあ、はあっ♡ 体熱い……でも気持ちよくて、れろっ、ちゅぽ♡ セーし美味しい♡」

「あ、触手さんあんなに出したのにガチガチでとろとろで準備できてる♡ いいよ。今度はこっちでいっぱいについて気持ちよくして♡」

「はあ、はあ！……あ、んあ……ん、んんっ♡ これ、んあっ♡」

「足に力がいりやな……あっ、んああああ！？」

「……ふう、ふあっ……じゅぼって入っちゃった♡ ああ、お腹の中、いっぱい♡」

「あ、んあっ♡……ん♡……ふー、ふー♡」

「んあ♡ 中でちろちろなめてるのわかる♡ ん、はう♡ んおっ♡ もうこれだけでイキそう……これで動いたらどうなっちゃうんだろう」

「あっ♡ 触手さんっ♡ んきゅっ♡ 突いてきてっ♡」

「ふう♡！ ふうっ♡！……はふ、ん♡……ッうあ！……ハア、ハア♡ ハアッ♡……ひうっ♡ じゅぼじゅぼ感じちゃう！？ あん♡ あん♡ あん♡ ああ♡♡」

「しゅごい♡ しゅごい♡ 触手チンポ、私の中の気持ちいいところ全部こすって♡ なめて♡ ぐちゅぐちゅに溶かしちゃってる♡」

「あ、あ♡ あああっ♡ 腰の動きっ♡ 触手さんに合わせてっ、んあああ♡ これ、ぜったいオナニーじゃ♡ でも止まらない♡♡♡……！」

「はふ、ん♡……ッうあ！……ハア、ハア♡ ハアッ♡！……はあ♡ はう……イକୁっ♡♡……ん♡……あ、あっ、あー♡……ふぐう♡」

「イକୁっ♡ んあっ♡ すぐにイッちゃうううう♡♡♡……！」

「イっくうっっ……♡♡♡……！」

「はあっ、はあ♡ はあ♡……しゅごかったあ。はまっちゃいそう」

「まだ時間半分ぐらいなのに」 シャツぐしょぐしょになるぐらい、汗だけで……うわービニールプールに水たまり出来てる……これ、半分ぐらいわたしの、だ、出しちゃったやつだよ……はあ、はあ……」

「でもまあすごい気持ちよかったし。少し休んだらもう一回ぐらい、シてもいいかな？ふう……はあ、はあ……」

「え、触手さん？ まって、その粒粒がいっぱいついたおっきな触手は……」

「それに、その吸い口のついた触手見たことあるような……え、ええ！？」

「待って！？ 全部いっぺんは無理！？ んひゃ♡ 乳首こりこりしちやだめえ♡♡！！？ しゅこしやすませてえ！！？」

「ふあああ♡ 触手さんに全身なめまわしやれっ♡ あ、ああ♡ ああああ♡♡！！！」

「んんんっ♡ イった後だからっ♡ 身体あ、敏感になってるのにい♡！！！」

「あは♡ ふあ、ふああ♡ んあああ♡ ん♡ んん♡ ふあっ♡！！……ハアッ、ハアッ♡！！ ふあっ♡♡！！……ん！ ふう♡！ ふうっ♡！！……はふ、ん♡」

「クリトリス吸いながら♡ 触手チンポ出し入れ♡ 無理無理！？ 飛んじゃう、気持ちよすぎて頭飛んじゃうからあ♡」

「またイっちゃうう！？ 触手さんにいっぱいイかされちゃうの♡！！！」

「んん♡……あ、あっ、あ、あっ、あー♡……ふぐう♡……フウ、フッ！……ん♡ ん♡ ふあっ♡！！……ハアッ、ハアッ♡！！ あっ♡ んお♡ ズンズンッって……触手さんが♡ 太くなって中、なにか上って♡ あ、もしかして……」

「んちゅ♡ こっちの触手さんもぱんぱんになって♡ れろ♡ この匂い……ふぁ、せーしの匂い？ すっごく濃くなってる♡」

「触手さん射精しちゃうの♡……あは、射精して、中にも外にもお口にもいっぱい触手さんのせーし出してイかせてください♡♡……!!」

「ん、んっ、んんっん————♡♡♡……!!」

「ぶっは♡ んくぅ…♡ はぁ、はぁ♡ 触手さんの射精すごかったあ♡ 中もそもドロドロ……せーしの匂いこんなに臭いの、癖になっちゃう匂い……はぁ、はぁ……ふぁ♡」

「ドロドロでねちゃっとしてて……これローションだね。精液っぽいローションって説明には書いてあったけど……臭いのにあんまり嫌じゃなくて、もうちょっとほしかったかな。でも、触手さん出し切っちゃって、くたつとしちゃったか……」

「ちゅ♡ 気持よかったよ……触手オナニーはまっちゃったかも」